

ま え が き

'88年度の保健管理センター報告書（第16号）をおとどけ致します。例年に倣い、1.学生の定期健康診断の成績、日常の保健活動に関する主な業務報告、2.研究活動の成果およびセンターが関与した教育・広報の実績 を内容としております。これらのうち特筆すべきは、学生健康診断成績のコンピューター整理が漸く軌道にのったこと、さらに学生にみられる“無症候性蛋白尿の実態”と、陽性者の取扱いについての方向付けがなされた点でありましょう。前者については、とかく個人の健康診断記録は不連続で、進学（中学→高校→大学）、そして社会人になるに際し活用されていない現状を考えると、記録のコンピューター整理と卒業時の個人への情報提供は「健康は自己管理されるべきだ」という考え方に沿う、1つの進歩をもたらすものと自負しております。次に、“無症候性蛋白尿”については、丁度この問題に対するガイドライン設定の必要性が提言（第1回全国国立大学保健管理施設協議会、10月、'89）された時期にあたり、20～30歳代をピークに受診する患者についての詳細な観察との対比で、本学における実態を考察した東福教授らの論文（十全医学会誌、98：439-447, 1989）は有意義であり、有用な情報を提供するにちがいありません。

健康度を把握するためにセンターの行いうる検査項目は限られており、一般社会人や住民検診におけるものに比べ、将来の疾病予防の観点からみて今日的な体裁を具えているとはいえませんが、今後、他大学における動向をみつゝ対応していく必要があると考えております。

文、法、経済学部の間移転に伴い、同キャンパスに新しい分室が設けられました。乏しい人員と設備でご迷惑をおかけすることが多々生ずると思いますが、何分のご理解とご協力を切に願います次第であります。

平成2年1月

金沢大学保健管理センター

所長 竹 田 亮 祐